

## 地域安全まちづくり審議会議事要旨

### 1 日時

平成21年3月17日（火）13:30～15:40

### 2 場所

兵庫県民会館 304号室

### 3 出席者

委員

井上委員、大沼委員、木谷委員、坂本委員、佐藤委員、瀬渡委員、高田委員、根津委員、藤原委員、山下委員、山田（知）委員（代理：垣尾県市長会参事）、山田（康）委員

県側

塙本政策担当部長、石井県民文化局長、東元地域安全課長、小林県警察本部生活安全部調査官ほか幹事課室

### 4 主な内容

#### (1) 会長の選任について

委員互選により山下委員が会長に選任された。  
山下会長は井上委員を会長代理に指名した。

#### (2) 地域安全まちづくり推進計画の進捗状況について

- ・ 地域力による防犯と設備・技術による防犯とのバランスが大事である。設備等の費用を負担できる者だけが安全を享受できるということになってしまっては、県が進めている地域安全まちづくりとのバランスがとれなくなってしまう。
- ・ 活動指標の現時点の実績が出ているが、地域の課題が出てきていないか、地域がどんなジレンマを感じているのかを踏まえた上で、推進計画の7つの行動を見直していくかなければならない。
- ・ 非行少年の問題、単身者の問題、児童虐待の問題を地域安全まちづくりとどう関連させていくのか。
- ・ 子育て応援ネットについては、専門性を有している人を活用してもらうようにして欲しい。
- ・ 地域で新しくできたマンションに外灯の設置をお願いするなど、地域住民としての地域安全まちづくりの取組を啓発しているほか、地域で研修会を実施すること等によって地域力を高めることができる。
- ・ 地域と警察が一緒になって住民向けのハンドブックを作成した。住民だけでは専門的なことがわからず、警察だけでは難しくて地域性に合わない。一緒に作ること

により、良いものができた。

- ・ 防犯設備をしっかりとすると安全性が増すが、防犯対策をしすぎることによる生活の不都合を理解する必要がある。防犯優良マンションについては、啓発が必要である。
- ・ まちづくり防犯グループの活動者が一部に偏っている。活動や成果が地域の中で目に見える形になっていることが大事であり、また、活動を継続させていくためのツールが必要である。
- ・ どのような犯罪が増加し、どのような犯罪が減少しているのかについても参考にする必要がある。
- ・ 手引書や事例集を開発して、いろいろなところに配布することが重要である。県の役割は情報提供である。
- ・ 地域安全まちづくりにはあいさつが大事である。
- ・ 他の活動団体との交流はあるが、横のつながりが広がらない。地域だけで横の連携を作るのは難しいので、行政が横の連携を作るための鎖になって欲しい。
- ・ 活動の様子が記載されたチラシを県で作ってもらい、地域で配布したところ、地域の方に改めて認識をしてもらうことができた。こうしたことでの活動が根付いていく。地域の方々に対する啓発のために、時々でいいからチラシを作って欲しい。
- ・ 自分たちの力で活動していくたいと考えているが、お茶代ぐらいは助成してもらえば活動が長続きすると思う。
- ・ 刑法犯認知件数の数字だけではその実態が見えない。被害金額も参考にする必要がある。
- ・ 防犯活動は楽しくないので、趣味的に防犯活動を広げてはどうか。
- ・ 予算がない、前例がない、というのではなく、まずはやってみることである。
- ・ 目指しているのは「安全」であって、「防犯」ではない。一人ひとりが安全で暮らせる地域社会を作りあげていくことを目指している。単に犯罪が減少すればよいのではないことをもう一度確認しておく必要がある。
- ・ 数値目標の数値からは実態が見えてこないが、数値がないと行政は動きづらい。実態が見える数値とは何なのかということを考える必要がある。
- ・ 子どもたちが安全に登下校できるための声かけをしてもらっており、学校として感謝している。
- ・ 学校では、子どもたちに地域の一員としての自覚を高めるために、地域のことは地域で学ぶ取組を行っているが、家庭で地域の話がされていないため、子どもたちにとっては、地域が身近でないようである。まちづくり防犯グループの活動に保護者の参加が少ないことも課題ではないか。
- ・ 子どもたちが地域で安心して遊べることが大事である。子どもたちの安全を守るために、地域がお互いに声かけをすることが大事であるということを、いかに保護者に自覚させるかである。
- ・ ゴミの出し方がまずい地域は危ない地域である。
- ・ 子どもが携帯電話を使って、犯罪すれすれのいやがらせやいじめを行っている。

子どもを守るためのサイバーに関する施策も検討してもらいたい。

- ・ 地域の方々が子どもを守る活動をしているところに、月に1回でも2回でもいいから、先生が加わってもらうと地域の方々の励みになる。校長・教頭ではなく、担任の先生が一緒に活動することが非常に大事である。
- ・ 地域で、ボランティア活動をする人たちの時間を預託する福祉銀行を設立する予定であるが、このような活動を広報誌にどんどん載せてもらいたい。載せてもらうことで、地域も頑張ろうという気持ちになるし、他の地域の参考にもなる。
- ・ 課題を明確にし、その課題は地域だけでは取り組めないので力を貸して欲しいと行政に対してはっきりと言える地域になることが必要である。
- ・ 親、学校、県、市町のそれぞれが地域安全の役割分担がわかれれば、一つの方向に向かっていくのではないか。地域ごとに役割分担を決めていけば、それが動きやすいのではないか。